

第 3 回 那珂市瓜連支所利活用検討委員会 会議録

開催概要

- ・ 日時：令和 7 年 1 2 月 2 3 日（火）午後 2 時から午後 4 時 32 分まで
- ・ 場所：総合センターらぼーる 2 階視聴覚室
- ・ 出席委員（敬称略・順不同）
元木委員、先崎委員、安島委員、萩野谷委員、寺門（眞）委員、大内委員、小寺委員、君嶋委員、會澤委員、庄司委員、生天目委員、寺門（純）委員、小貫委員、友部委員、加藤委員、玉川委員、高塚委員（17 名）
- ・ 事務局
玉川（副市長）、篠原（総務課長・司会）、川勾（総務課総括補佐）、桧山（行財政改革推進室長）、萩谷（行財政改革推進室）、鈴木（行財政改革推進室）
- ・ 傍聴者：10 名（うち報道 1 名含む）

会議次第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事
 - （1）スケジュールの見直しについて
 - （2）オリエンテーション
 - （3）グループワーク
 - （4）発表・質疑
 - （5）個人ワークシートの修正
 - （6）市民アンケートについて
- 4 閉 会

1 開会

- ・ 司会より開会あいさつ。

2 委員長あいさつ

- ・ 本日の委員会は第 3 回目となり、グループワーク形式で進行するため、活発な意見交換を期待する。

3 議事

（1）スケジュールの見直しについて

- ・ 事務局より説明。
- ・ 経緯：第 1 回、第 2 回の委員会で委員からいただいた貴重な意見に対し、十分な議論を深める時間が確保できていないとの指摘があった。
- ・ 変更内容：議論をより一層深めるため、委員会を 1 回追加し、全 6 回で実施する。

- ・今後の進め方：

第3・4回：これまでの意見を基に、利活用の目的（方向性）や優先順位を整理する期間。（第4回が追加分）

第5・6回：利活用方針案の骨子を整備する期間。

（2）オリエンテーション

- ・事務局より、一括説明。
- ・アイスブレイク「隠れた漢字を見つけよう」
- ・目的：グループでの協力を通じて、多様な視点や気づきを得る体験をするため。

（3）グループワーク

- ・事務局より、グループワークの進め方など説明。
- ・趣旨：第1・2回で出された多様な意見の中から、重要と考えられる利活用の方向性を整理する。
- ・ゴール：
グループ：目的、にぎわいへの繋がり、理由、実施主体などをまとめた「発表用シート」を完成させ、発表する。
個人：グループワークや他班の発表内容を踏まえ、自身の考えを「個人ワークシート」に追記・修正し、提出する。
- ・進め方（7ステップ）：
 1. 役割分担：各グループで「進行役」「書記」「発表者」「質疑者」を決定。
 2. 付箋の貼り付け（個人ワーク）：
 - ・事前に記入した個人ワークシートに基づき、利活用の目的別に「優先度が高い」と考える理由をピンクの付箋に、「優先度が低い」と考える理由を水色の付箋に記入。
 - ・それらをグループワークシートの該当する理由（賑わい、財政負担、類似性など）の欄に貼り付け、各委員の考えを可視化する。
 3. 意見交換：付箋の内容について、なぜそのように考えたのか、グループ内で意見を交換する。
 4. 意見まとめ：グループの意見を「発表用シート」にまとめる。
 - ・優先度が高い目的、にぎわいへの繋がり、理由、実施主体などを記入。
 - ・意見が一つにまとまらない場合は、無理に絞らず複数の意見を併記可。
 5. 発表・質疑応答：各グループが発表し、その後質疑応答を行う。
 6. 個人ワークシートの修正：全体の議論を踏まえ、個人ワークシートを修正・加筆する。
 7. 提出：個人ワークシートを事務局に提出する。

（4）発表・質疑

グループワーク発表

各班（A班～D班）が、瓜連支所の利活用について検討した内容を発表した。

※発表順

D班（A委員、B委員、C委員、D委員）

■優先度の高い分野：子育て・教育の振興

■コンセプト：近隣にはない独自性を持った施設を目指す。

■具体的な利活用案：

- ・学校周辺に、子どもたちが放課後も安全に過ごせる遊び場や学習スペース（学習塾を含む）、学童保育機能を設ける。これにより、にぎわいを創出する。
- ・瓜連地区住民にとって重要な郵便局の窓口機能は存続を前提とする。

■実施主体：民間事業者が理想。

※D班への質疑※

（E委員）：「子どもたちの遊び場」について、室内を想定しているのか、それとも建物を解体して屋外スペースを確保することも考えているのか。

（B委員）：利活用という観点から、室内・屋外の両方を含めて考えている。

A班（E委員、F委員、G委員、H委員）

■優先度の高い分野：商業・経済活動を主軸に、子育て・教育、福祉、防災・地域活動の要素を取り入れた複合的な活用。

■目的：

- ・市民の生活利便性の向上
- ・地域での雇用創出
- ・市民同士の交流促進
- ・民間による新たなサービスの創出

■具体的な利活用案：

- ・市が土地・建物を貸し出し、賃貸収入を得る。
- ・郵便局や飲食店は必須とし、子育て世代や中高生が利用しやすい施設とする。
- ・多世代交流の拠点とする。

■実施主体：市と民間事業者の連携。

※A班への質疑※

（I委員）：要点をまとめると、市と民間事業者が連携して建物を活用し、飲食店などを入れるのが主軸で、そこに子育て支援などの要素も取り入れる、という理解でよいか。

（H委員）：その理解で正しい。商業活動がメインで、その中に子育て・教育などの機能も取り入れるということである。

C班（J委員、K委員、I委員、L委員）

■優先度の高い分野：子育て・教育、福祉の振興による多世代交流。

■目的：市民同士の活発な交流促進。

■具体的な利活用案：

- ・学習スペース：退職教員などが指導する、温かみのある学習の場を創設し、既存施設（らぼーる）との差別化を図る。
- ・子ども食堂：既存の子ども食堂を移転・拡充するなど、連携や調整を検討。
- ・福祉・医療：気軽に相談できる医療相談窓口の設置。精神疾患を持つ方々の社会復帰を支援する小規模な活動の場など、幅広い世代を対象とした福祉活動の拠点とする。
- ・カフェ等：常設ではなく、イベント時にキッチンカーを呼ぶ、または持ち寄り形式で交流の場とする。

■実施主体：市、地域団体、公共・公益的団体などによる複合的な運営。

※C班への質疑※

（C委員）：総合的に見ると、那珂市の「教育特区」のような構想を目指しているということか。

（I委員）：「特区」というよりは、他の地域にはない最先端の取り組みを実現したい。子どもから高齢者まで多世代が触れ合え、子育て世代が気軽に子どもを預け合えるような、複合的で楽しい空間を目指しており、まだまだ夢が膨らんでいる段階である。

（J委員）：私たちの班は「多世代交流」を大きなテーマとした。他の班も子育てや地域交流をテーマに挙げていたが、私たちの班の発表は分かりやすかったのではないかと。若い世代の意見も取り入れ、多角的にまとめることができた。

B班（M委員、N委員、O委員、P委員、Q委員）

■優先度の高い分野：防災・地域の振興、福祉の充実、子育て・教育の振興。

■コンセプト：

- ・瓜連支所を地域のシンボルとして捉え、土地・建物を活用する。
- ・既存施設で対応可能な機能はそちらを利用し、「支所ならではの」役割を担う。

■具体的な利活用案：

- ・防災・地域：災害時の拠点、また公民館機能が不足している地区のための地域活動拠点（まちづくり委員会など）として活用。安全性・安心・必要性を重視。
- ・福祉：高齢化・少子化に対応するため、福祉の充実を図る。
- ・子育て・教育：子育て支援住宅を整備し、子育て期間中に低廉な家賃で提供することで、定住促進を図る。

■実施主体：

- ・防災・福祉関連は、市および地域団体が主体となる。
- ・子育て支援住宅は、民間活力を利用する。

※B班への質疑※

（C委員）：防災は非常に重要だ。那珂地区（旧那珂町）のコミュニティセンターは

立派だが、それに比べて瓜連地区の公民館的施設は見劣りする。この地域間格差は、那珂地区が工業団地などを持つ一方、瓜連にはそれがなかった財政基盤の違いが背景にあるのではないか。合併時の格差是正資金などを活用し、この機会に瓜連地区の施設を充実させることはできないか。

(○委員)：公民館機能については、瓜連地区にはらぼーるがある。一方で、上地区・中地区・下地区・平野地区の公民館施設は耐震性の問題や施設の老朽化により、災害時の避難所としては使えない状況にある。そうした背景から、耐震性のある支所を防災拠点として利活用する必要性を議論した。

(5) 個人ワークシートの修正

- ・全体の議論を踏まえ、個人ワークシートを修正・加筆した。

(6) 市民アンケートについて

- ・事務局より、瓜連支所の利活用に関する市民アンケートの実施について説明。
- ・目的：
市民の意向を把握し、今後の検討に活用する。
本検討委員会での議論(グループワーク)の内容と直接比較・検討できるよう、同様の視点で設問を作成する。
- ・対象：無作為抽出した18歳以上の市民2,000人
- ・実施時期：毎年1月頃に実施している市民アンケートに設問を加えて実施する。
- ・設問内容：以下の2問を追加する。
 1. どのような目的で活用することが望ましいとお考えですか？(3つまで選択)
 - ・子育て・教育の振興につながる活用
 - ・福祉の振興につながる活用
 - ・防災・地域の振興につながる活用
 - ・歴史・文化の振興につながる活用
 - ・観光の振興につながる活用
 - ・商業・経済活動の振興につながる活用
 - ・その他
 2. どのような「にぎわい」につながると良いとお考えですか？(1つ選択)
 - ・地域で働く場が生まれること
 - ・市民同士の交流が活発になること
 - ・市外からの来訪者が増えること
 - ・新たなサービスや活動が生まれること
 - ・その他

○今後のスケジュールについて

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明。
- ・第4回検討委員会の開催：
日時：3月24日(火)午後2時より

場所:総合センターらぼーる

第4回委員会の主な内容:事務局からの情報提供が中心となる予定。

1. 事業者へのヒアリング（可能性調査）の結果
2. 市民ワークショップの結果
3. 市民アンケートの結果

4 閉会

以上